

令和3年度 小学校教育課程研究協議会〔社会科〕

令和3年7月 岐阜県教育委員会

社会的な(社会的事象の)見方・考え方を働かせる

社会的な(社会的事象の)見方・考え方とは

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法(考え方)」

視点とは・・・「位置や空間的な広がり」、「時期や時間の経過」、「事象や人々の相互関係」。

【位置や空間的な広がり】	【時期や時間の経過】	【事象や人々の相互関係】
地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会的条件、土地利用 など	時代、起源、由来、背景、変化、発展、継承、維持、向上、計画、持続可能性 など	工夫、努力、願い、業績、働き、つながり、関わり、仕組み、協力、連携、対策・事業、役割、影響、多様性と共生 など

(中教審「社会科、地理歴史科、公民科ワーキンググループ」補足資料より)

方法とは・・・社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したりして、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること。

社会的な見方・考え方を働かせるとは

「視点や方法(考え方)を用いて課題を追究したり解決したりする学び方を表すとともに、これを用いることにより児童生徒の「社会的な見方・考え方」が鍛えられていくこと。

社会的な見方・考え方が表出する児童生徒の様相と教師の指導の見取り方

社会的な見方・考え方が表出する様相

- 事実を具体化している
- 事実を比較・関連・総合している
- 人物の思いや願い、努力や工夫を考えている
- 事実を自分との関わりで考えている
- 事実を一般化・概念化している
- 事実を転用・応用している

社会的な見方・考え方の見取り方

- 根拠立てて話しているか
- 具体的に話しているか
- 自分の考えや判断したことを話しているか
- 他の児童生徒の考えや判断と違いはあるか
- 自らの社会認識を深めているか

社会的な見方・考え方を働かせるための「問い」の例

- ・どのような場所にあるか。どのように広がっているか。〔分布、地域、範囲(位置や空間的な広がり)〕
- ・なぜ始まったのか。どのように変わってきたのか。〔起源、変化、継承(時期や時間の経過)〕
- ・どのようなつながりがあるか。なぜこのような協力が必要か。〔工夫、関わり協力(事象や人々の相互関係)〕
- ・どのような違いや共通点があるか。〔比較・分類・総合〕
- ・どのような役割を果たしているか。〔地域の人々や国民の生活と関連付け〕

(参考「小(中)学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編」)

社会科における ICT (1人1台端末等) の有効な活用

「見方・考え方」を働かせることについて、学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編では「教科の本質的な学びを促し、深い学びを実現するための思考力、判断力の育成はもとより、生きて働く知識の習得に不可欠である」「主体的に学習に取り組む態度にも作用する」「資質・能力全体に関わるもの」と示されています。

また、ICTの活用は、この先の社会を生きる子どもたちにとって重要な「資質・能力」でもありません。学びを深める上でも、「資質・能力」の育成という観点からも、「活用の可能性」「有効な活用の在り方」を共に探っていきましょう。

<ICT (1人1台端末等) の機能例>

※標準インストール・無料インストール・Webブラウザで使用・無償提供のもの

- 写真・動画撮影 (QRコード読み取り)
- 画像・動画編集
- 地図作成
- 学習支援ソフト
- ファイル共有
- プレゼンテーションソフト
- コメント
- チャット
- アンケート
- 表計算ソフト
- 文書作成ソフト
- 電子メール
- ウェブ会議
- 図形作成
- 音楽作成
- プログラミング

(文部科学省「1人1台端末の活用事例のGIGAスクール構想における標準仕様について」)

<社会科の学習における ICT の主な活用例>

単元における ICT の主な活用	単位時間における ICT の主な活用
■ 学習課題を設定する。	【問題発見の場面】 ■ 効果的に社会的事象を捉え、課題意識を高める。 プレゼンテーションソフト 写真・動画 * 変化、変容、広がりをつかむ、比較する
■ 課題解決への見通しを立てる。	【課題追究の場面】 ■ 必要な情報を、自らの意思で収集、整理、分析、蓄積、加工する。 ウェブブラウザ 共有フォルダ 資料(画像)編集 地図作成 * 比較・関連・総合する(調べる、考える)
■ 課題解決に向けて、必要な情報を収集する。	【課題解決の場面】 ■ 仲間の考え(提示した資料)と、比較・関連・総合し、自分の考えを深める。 ファイル共有 学習支援ソフト アンケート チャット * 表現する、伝え合う、議論する、再構成する
■ 収集した情報を読み取ったり、分類・整理してまとめたりする。	【振り返りの場面】 ■ 仲間との交流を踏まえ、自らの考えを再構成する。 文書作成ソフト コメント * 学びを調整する、振り返る
■ 自分の考えを表現する。	
■ 複数の意見や考えを議論して整理し、協働的に課題解決を図る。	
■ よりよい社会の形成に向けて社会参画の在り方を協働的に構想する。	
■ 個人やグループで学びの成果を表す資料や作品を制作する。	

(文部科学省「教育の情報化に関する手引(追補版)」令和2年6月を参考に作成)

「教科等横断的な視点に立った資質・能力」を育成するための ICT (1人1台端末等) の活用

- 他の教科等で学習した、ICT 端末を活用した表現活動や情報活用を行う。
- 現代的な諸課題に関する教科等横断的な資料等を ICT 端末で編集し、自らの考えをまとめたり、表現したりする。
- 「総合的な学習の時間」の「探究的な学習の過程」において、各教科等の学習内容を ICT 端末で関連付け、自ら発見した問題の解決に生かす。

協働学習支援ツールの有効な活用・ICT を活用する際の留意点

1 協働学習支援ツールの有効な活用

過程	単位時間あたりの主な活用	
課題把握	<p>◇前時に学んだことや社会的事象に関する資料等を ICT 端末に送信し、既習内容を確認する。</p> <p>◇ICT 端末に送信されたスライドや複数の資料等を読み取り、気付いたことや疑問に思うことを話し合い、学習課題の焦点化を図る。</p>	
課題追究	<p>◇共有フォルダに保存しておいた資料等を ICT 端末で読み込んで、資料等を読み取り、気付いたことや考えたことを ICT 端末上に書き込む。(学習ノートに記述し、カメラ機能で撮影することも考えられる。)</p> <p>◇協働学習支援ツールから Web サイトを開き、学習問題に関連する資料を収集し、気付いたことや考えたことを書き込む。</p>	
課題解決	<p>◇各自が ICT 端末で入力した気付きや考えについて、スライド等を提示して説明し合い、学習問題について話し合う。</p> <p>◇ICT 端末で作成した スライド等を共有し、グループ等で協働してスライドを作成しながら話し合う。</p>	
振り返り	<p>◇ICT 端末に本時の学習内容に関連する資料等を取り込んで、文書作成ソフトを用いて 学習のまとめを入力する。</p> <p>◇ICT 端末の学習ノートに記述した学習のまとめを カメラ機能で撮影し、本時の資料等を挿入して保存する。</p> <p>◇前単元や他教科等の学習と関連付けた資料から考えを深めたり、復習問題に取り組んだりするとともに、本時の学びの成果を生かして実際の生活や現代社会の課題について考える課題を提示する。</p>	

2 ICT を活用する際の留意点

(1) 児童生徒が正しく理解できるための資料の取扱いについて

- ・活用する資料等の出典先を明らかにするなど、著作権者に配慮した情報の活用を行う。
- ・情報を活用する際には、情報の信憑性や妥当性等について留意する。

(2) 児童生徒が自ら活用できるための場の設定や交流の仕方について

- ・単元を通して、児童生徒が様々な情報収集の手段を用いて資料等から追究できるようにする。
- ・児童生徒が、ICT を 1 つの手段として学習課題の解決の見通しを立てられるようにする。
- ・交流の仕方については、誰もが視覚的に見やすく示すための学び方を工夫する。
- ・全ての児童生徒が言語活動を行えるよう説明時間や対話の携帯の工夫をする。

社会

ICT を効果的に 活用した教材例 (小)

<個別最適な学び>

- ・ Web サイトの動画を活用し、一人一人の見学の視点に応じた調査活動を行う。

<協働的な学び>

- ・ ICT 端末や大型提示装置などで考えを視覚的に共有するとともに、思考ツールを用いた意見交流を行い、考えを深める。

過程	主な活用方法	指導の留意点
課題把握	<p>【課題】 どうしてスーパーマーケットには、たくさんのお客さんが集まるのだろうか。</p> <p>活用① <u>おうちの人が買い物で気を付けていることについて、大型提示装置の資料から読み取る。</u></p>	<p>【大型提示装置でアンケート提示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おうちの人の買い物調べの集計結果を提示し、消費者の願いを捉えさせ、販売店の工夫について、前時に計画した見学の視点を確認する。
課題追究	<p>【個人追究】 バーチャル見学を行い、たくさんのお客さんが集まる「ひみつ」を調べる。</p> <p>活用② <u>ICT 端末から Web サイトの動画を視聴する。</u></p> <p>活用③ <u>一人一人の見学の視点や興味・関心に応じたサイトの動画を活用して、スーパーマーケットの販売の工夫について調べる。</u></p> <p>活用④ <u>見つけたひみつをカードに書き込む。思考ツールの「X チャート」を用いて、値段、産地、新鮮さ等の視点で分類しながらまとめる。</u></p>	<p>【NHK for school の視聴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参考となるサイト（動画）を示し、スーパーマーケットのバーチャル見学を行う。 <p>【ICT 端末で思考ツールを活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が見つけたスーパーマーケットの販売の工夫について、ICT で思考ツールの「X チャート」に値段、産地、新鮮さ等の視点別に分類してまとめる。
課題解決	<p>【全体交流】 たくさんのお客さんが集まる「ひみつ」を交流する。</p> <p>活用⑤ <u>大型提示装置に一覧に示すことで、自分の考えと仲間の考えを比べられるようにする。</u></p> <p>活用⑥ <u>コメント機能を使って、仲間の考えを自分に取り入れることで自分の考えを深める。</u></p>	<p>【ICT 端末で仲間の考えを踏まえ編集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が見つけた「ひみつ」のデータを仲間へ送信し、大型提示装置に投影された一覧を基に、仲間の見つけた「ひみつ」と比べる。 ・ コメント機能を用いて、仲間の見つけた「ひみつ」を取り入れる。
振り返り	<p>【まとめ】 学びの成果を振り返る。</p> <p>活用⑦ <u>ノート記述を ICT 端末で撮影し、単元の学びを蓄積する。</u></p> <p>活用⑧ <u>家庭学習としてお店を訪れ、買い物の様子を調査し、文書作成ソフトでレポートを書く。</u></p>	<p>【カメラやドキュメントで記録】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習のまとめの記述をカメラで撮影したり、文書作成ソフト等で入力したりして、フォルダへ保存し、ポートフォリオを作成する。 ・ 学びの成果を実際の生活と関連付け、お店の工夫について文書作成ソフトで入力・送信する。

ICT の効果的な活用例～小学校～

活用① バーチャル見学

【調査活動】

地理的条件や感染症予防対策のために、スーパーマーケットや消防署等へ見学することができないケースでも

「NHK for school」や企業のHPを活用して、バーチャル見学を行うことができる。（出所：



NHK for school)

【留意事項】

- ・ 単元全体の学習のなかに、計画的に見学活動を位置付けることや、見学の視点をもたせるようにする。
- ・ 見学の目的に合わせ、参考になるサイトをいくつか示しておくといよい。

活用② マルチメディアで資料作成

【表現】

見学調査をした際に、見つけた「ひみつ」等について写真に撮ったり、インタビューを動画で撮影したりするなどする。それらをもとに資料を制作し、課題に対する自分の考えを表現できるようにする。



【留意事項】

- ・ インタビューや撮影の許可については、相手側の了承を得るようにする。
- ・ 撮影の際には、必ず了承を得ることと、人や映してはいけないものについての約束を守るようにする。

活用③ 付箋・思考ツールの活用

【思考を深める学習】

ICT 端末に送付された資料等に、気付いたことや考えたことを付箋で記入し、貼っていく。それを使って、自分の考えを発表したり、仲間の付箋（考え）を加えたりすることで課題に対する自分の考えを深められるようにする。



【留意事項】

- ・ 気付いたこと、考えたこと等、付箋に色分けをする等の工夫をして、付箋機能を有効に活用できるようにする。

活用④ 遠隔地の学校との交流授業

【学校の壁を越えた学習】

3年生「市の様子」や4年生「県内の特色のある地域」の学習において、単元で学んだ地域の特色について、他校とお互いに交流する。相手の小学校の児童に、自分たちの学びを評価してもらったり、教えてもらったりすることで学びをより深められるようにする。



【留意事項】

- ・ 単元によって、調査活動や学びの成果発表として、相手の了承を得た上で、市役所や生産者なども考えられる。

社会科における学習評価

～「指導と評価の一体化」と「主体的に学習に取り組む態度」を育成する社会科指導～

指導と評価の一体化

新学習指導要領では、学習評価を真に意味のあるものとし、指導と評価の一体化を実現するために、次の三点を学習評価の改善の基本的な方向性とししました。

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
 - ② 教師の学習改善につながるものにしていくこと
 - ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと
- その実現のため、以下のことに留意して指導と評価を計画・実施していきます。

- ◎ 「指導（学習改善）のための評価」と「評定に用いる評価」の両面を実施すること
- ◎ 「内容のまとめり（単元）」ごとに評価規準を設定すること
(すべての単位時間で「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の評価するわけではありません。)
- ◎ 社会科においては、学習指導要領に示された「内容のまとめり」は複数の内容に分かれ、その内容ごとに単元を構成するものがほとんどです。そのため、単元ごとに単元構成や学習過程に沿った具体的な評価規準を作成していくことになります。
(参考：国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」)

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

社会科において、育成したい三つの資質・能力のうちの一つ「学びに向かう力、人間性等」については、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取る部分と、②観点別学習状況の評価や評定になじまず、個人内評価を通して見取る部分があります。すなわち、②については観点別学習状況の対象外とする必要があります。

また、「主体的に学習に取り組む態度」に係る評価の観点の趣旨として、次の二つの側面があります。

- ア 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた**粘り強い取組**を行おうとしている側面
- イ アの粘り強い取組を行う中で、**自らの学習を調整**しようとする側面

【社会科における「主体的に学習に取り組む態度」が見られる学びの姿（例）】

過程	「主体的に学習に取り組む態度」を見取る場	想定される姿と評価の方法
課題把握	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的事象から自ら問いを見いだす。 ・ 問題解決のための見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入の資料に関心をもち、自ら課題を見つけ出そうとしている。(発言、つぶやき) ・ 課題について予想し、追究する見通しをもっている。(記述、発言)
課題追究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習問題を解決するために適切な資料等を選択する。 ・ これまでの学びや生活経験等を関連付けて考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料から読み取った事実を課題につなげようとしている。(記述、観察) ・ 生活経験や既習事項等と比べて課題追究をしようとしている。(記述、発言)
課題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の児童生徒の意見や考えを踏まえて、学習問題について考察する。 ・ 本時の内容について概念等に関する知識や技能からまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流の事前と事後で、考えを深めたり、変容させたりしている。(記述、発言) ・ 習得した知識を活用し、発言したり、記述したりしている。(記述、発言)
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の経緯を振り返ったり、単元の学習と関連付けたりして考える。 ・ 学習を振り返って、さらに調べたいことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元を貫く課題に対して、学習したことを活用してまとめている。(記述、ワークシート) ・ 自分の意見や疑問なども含めながら、課題についてまとめている。(記述、発言)